

大津百町

江戸時代（1603～1867年）を通して、大津は江戸（現在の東京）と京都をつなぐ東海道において、京都の直前に位置する街であり、当時の首都への玄関口として機能しました。多くの商人や旅行者が通過したことから、大津は商業拠点へと発展。伝統的な木造の町家に入った宿屋や茶屋、商店が通り沿いに数多く並び、多様性のあるコミュニティを形成しました。その様子は「大津百町」として知られるようになりました。

現在の人々も、東海道を歩いて大津の繁華街を通り抜けます。京都までの距離を示す古い標石がまだ残されており、町屋の建物も良好に保たれています。百町エリアには約1,500軒もの歴史的な町家が残っており、そのなかには江戸時代に建造されたものもあります。街の一角に掲げられたプレートは、1891年に起きた悪名高い大津事件の場所を示しています。この事件では、外国に対する反発感情がまだ強かった時代に、ロシア皇太子の暗殺が図られ、失敗に終わりました。

百町エリアの中心付近では、東海道の一部が江戸時代の様子に復元されています。何代にもわたって経営していることもある地元の菓子や海産物を販売している商店は、今でも旅行者を歓迎しています。350年の歴史を持つ酒蔵も、昔ながらの商店街で営業を続けています。